

「電子くじ」について

電子くじは、開札において同価の入札をした者が2人以上あるとき(総合評価落札方式においては評価値が同じ者が2人以上あるとき)に、電子入札システムで自動的に落札者(入札参加資格を開札後に確認する案件においては落札候補者)を決定するために使用します。

電子くじには、入札書が電子入札システムに到達した時刻と、「くじ番号」が用いられるため、入札書の提出時には、「入札金額」とともに「くじ番号」(入札参加者が任意に選定する3桁の数字)の入力が必要です。

1 「電子くじ」の計算方法について

電子入札システムの「電子くじ」の方式について説明します。

項番	< 電子くじの方式 >
1	入札書提出時に、くじ番号(入札参加者が任意に選定する3桁の数字)(a)の入力を行います。
2	入札書が宮崎県電子入札システムに到着した時刻を元に、GMT(グリニッジ標準時)1970年1月1日0時0分0秒からの延べ秒数を計算し、下3桁の数値(b)を取り出します。 入札書到達時刻は、入札書提出時に発行される「入札書送信確認票」や「入札書受付確認通知書」で確認することができます。
3	入札参加者ごとに、項番1のくじ番号(a)に項番2の数値(b)を足し合わせ、計算結果の下3桁の数値(c)を求めます。
4	電子くじ対象者の電子入札書がシステムに到着した時刻順に、0, 1, 2…と番号を割り当てます。
5	電子くじ対象者の項番3の数値(c)をすべて足し合わせ、当該電子くじ対象者数で割り、余りの数値を求めます。
6	項番4で電子くじ対象者に割り当てられた番号と、項番5で計算した余りの数値が一致した入札参加者が、落札候補者となります。

※天体観測を元に定められた GMT (グリニッジ標準時) と JST (日本標準時: 兵庫県明石市を通る東経 135 度上の時刻) とは 9 時間の差があります。

2 「電子くじ」の計算例について

くじ対象者が3者の場合の「電子くじ」の計算例について説明します。

項番	くじ対象者	A社	B社	C社
1	くじ番号 (a)	418	020	861
2	1970年1月1日0時0分0秒(GMT:グリニッジ標準時)から電子入札書到達時刻までの延べ秒数 (下3桁を使用) (b)	[入札書到達時刻]2005/7/8 16時40分50秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数] 1120808450秒 下3桁 450	[入札書到達時刻]2005/7/7 10時20分35秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数]1120 699235秒 下3桁 235	[入札書到達時刻]2005/7/7 14時25分10秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数] 1120713910秒 下3桁 910
3	((a) + (b)) (c) (下3桁使用)	(418+450) 868	(020+235) 255	(861+910) 1771 下3桁 771
4	くじ対象者の入札書到着順番 (0から付番)	2	0	1
5	(c)の合計÷入札参加者数	(868+255+771) ÷ 3 = 631 余り"1"		
6	落札候補者	C社 (到着順番"1"=余り"1")		

※計算を試される場合に、電卓では項番5の"余り"ではなく小数点が表示されますので、手計算されると理解し易くなります。